



## ものぐさでぐうたらずぼら秋刀魚焼く

白井道義

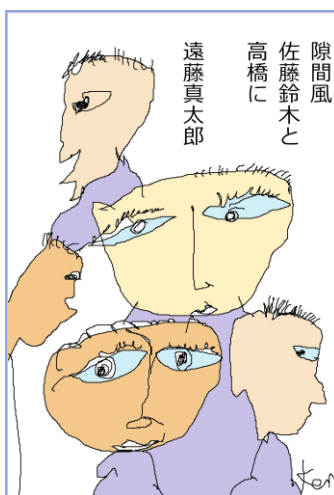
定年を迎えて何年か過ぎた男の生活ぶりが垣間見える。お気楽、平穏な毎日は、幸せと言えれば幸せなんだが、どこことなく悲哀もある。



## 天ぷらにされる積もりもなき紅葉

藤森荘吉

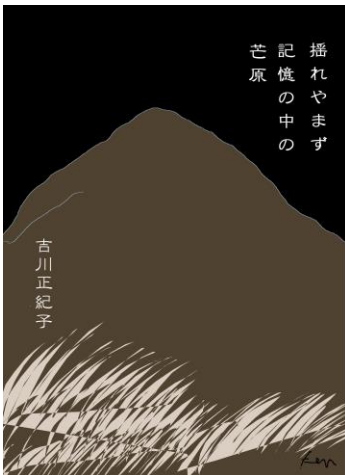
大阪箕面市は紅葉の名所。「日本の滝百選」の箕面大滝があり、紅葉の天ぷら屋さんが並ぶ。美しいものを食べたいという願望と罪悪感が裏腹。



## 隙間風佐藤鈴木と高橋に

遠藤真太郎

日本人の名字の数は十万とも二十万とも。なかでも佐藤、鈴木、高橋は最も多い。どんな間柄でも隙間風が吹くことをうまく一句で表現。



## 揺れやまず記憶の中の芒原

吉川正紀子

芒原は作者の中の忘れえぬ風景の象徴でもある。揺れるとは、芒でもあり、作者の心の動揺でもある。具体的な場面は読者の想像に委ねられる。



## 裏表選べぬままに色葉散る

井口夏子

世の中はままたらぬものです。色葉にしても華麗に舞いながら散り、美しい表のままに着地したい。天ぷらという意外な余生もありうる無常よ。



## 雑炊で皆幸せな結末に

八塚一青

政治がどうの経済がどうのと口角沫を飛ばした宴会も、最後の締め雑炊で「まあなんだな、いろいろあるけどお互い頑張ろうや」という結論に。